

優秀賞

優秀賞

庶民の娯楽

北海道名寄市・農業

桜木もも

四九歳（一般の部）

忘れもしません。私が初めてパチンコ店に入ったのはハタチのとき、真夏のとても暑い日でした。シヨッピングで街中を歩き回った私は汗だくになり、「あー暑い。ちよつとどこか涼しいところはないかしら」そう思っていたところ、目に飛び込んできたのが偶然そこにあつたパチンコ店でした。

残念ながら数年前そのパチンコ店は閉店となつてしまいましたが、そのとき初めてやったパチンコは運よくチューリップが開きまくり、ジャンジャン玉が出るわ出るわ。この話をする、「最初って、大抵だれでもそんなもんさ」と笑われるのですが、袋いっぱいにお菓子やチョコレート、洒落たライターやぬいぐるみなどを抱え、すっかり汗も引いた私は、ルンルンと家に帰った記憶があります。

その後、時代の流れと共にパチンコ店もパチンコ台も変化し、大当たりが一回二十回という連チャン爆発のめくるめく興奮も味わい、二〇〇〇回転三〇〇〇回転と恐ろしいほどハマリまくっても、でもやめられない苦い辛酸も舐め、それはまるで天国と地獄のような両極端の世界となつてしまいました。大金を持たないと遊べなくなったことで、一回の大負けがひと月の食費を上回る金額となり、家庭生活をドカンと直撃するのですから、一庶民の主婦がそうそう続けられるものではなく、次第に私の足はパチンコ店から遠のいていったのです。それが今、お財布に優しく気軽に楽しめるパチンコ『遊パチ』の登場で、私のパチンコライフは復活し、毎日が楽しくてしょうがありません。

一〇〇分の一以下という確率の甘い機種が様々勢揃いしていますので、長い時間粘らなくてもピロピロロロ〜ンと当たりの感触を楽しむことができ、しかも貸玉は一円。大金を使わずに、「当たったー。やったー」という瞬間を頻繁に味わえるのですから、とても幸せな気分になれるのです。

「すごいですね。」

「いやあ、たまにはこういうこともないかね。」と笑い合ってみたり、

「なかなか当たりませんねえ。」

「ほんとにね。」

と互いに大きな息を付いてみたり、遊パチという同じ楽しみを求める名も知らぬお隣さんの小さなコミュニケーションもなかなか楽しいもの。

加えて、コールボタンを押すとすぐに駆けつけてくれるスタッフの皆さんの、お仕事に対する熱意や誠意にも心休まる気がするのは、私だけではないはず。仕事とはいえ、いつも笑顔を絶やさずテキパキと対応してくださるスタッフの皆さんには、「えらい！」「さすが！」と叫んであげたい気になってしまいます。

遊パチを楽しむようになってから、家庭経済を脅かすような負けはなくなり、出玉を交換して持ち帰る品物によっては、夫婦で大笑いになることもあります。「トイレットペーパーなんてもらってくるの、お前だけじゃないのか？」
「え、そうかなあ。だってうちのもう残り少なくてさ、買いに行かなくちゃって思ってたから、だから今日はこれにした。」

十二ロール入りのトイレットペーパーを、四袋も下げて帰宅した私です。

「本日、千円札二枚が缶ビール一箱に化けましてござりまする。」

ビールを持ってきた日、時代劇口調でおどけてみれば、
「ほほう。おぬしもなかなかやるものだろう。」

これまた殿口調でこたえる夫。ぶつぶと吹き出し笑う二人です。

最近、店に行くたびに密かに眺めている景品があります。それは、綺麗な薄紫の文字盤をした腕時計です。鍵の掛かったガラスケースの中にあって、キラキラと輝いています。今は見るだけの私ですが、近いうちにゲットして腕に巻きたいものだ。とニタニタとガラスケースを見ています。

「仕事もしないでパチンコばかりやってるんじゃないの？」とパチンコを嫌う友人に言われたりするので、決してそうではありません。本業の仕事はもちろん一生懸命、炊事洗濯掃除といった主婦業も当然のこと、やるべきことはやった上で、スポーツ、読書、旅行、カラオケといった趣味娯楽のカテゴリーの一つとして私の場合、手軽に楽しめる遊パチもある。そういうことなのです。

現在、私にとって遊パチ導入のパチンコ店は、さながら第〇のショッピングセンターのような位置づけになっています。主婦の願う生鮮食品などはさすがにありませんが、景品には実用性の高い日用雑貨や嗜好品、身につけてみたい装飾品などが多種多様に揃っていて、「今日はこれにしましょ」とあれこれ選ぶ楽しみがあります。

優秀賞

庶民の娯楽パチンコは、だれでも手軽に楽しめるものであり続けてほしいものです。大儲けを狙うあまり金銭感覚も麻痺し、生活の危機に直面したり借金をしたりするのは、これはもう庶民の遊びという範疇を逸脱しているのです。よう。少ないお金で遊べてのんびり楽しめる遊パチは、そういった意味でパチンコ本来の『庶民の娯楽』の原点へと回帰したと言えるかもしれませんね。

ちなみに、私が一番のお気に入り台は、白粋の海物語。マリンちゃんのカラッキー！」の音が、さて今日は何回聞けるかしら。期待を胸に、いざ！